



商品名の「ココちゃん」は愛犬の名前から。ころんと可愛いベビーカステラを、1日500~600個焼き上げる。人と触れ合いを大切に「10連ミニドーナツ」などの新作も生み出し、地域に笑顔を広げている

高梁市の北東部に位置する有漢町。周囲を400~700mの吉備高原の山々が囲い、南北を高梁川の支流・有漢川が流れる緑豊かな盆地で、温暖な気候から桃やブドウなどの栽培に適した果物の郷でもある。

この地で生まれ育った上藤亨さんは18歳の時に大阪に移り、以来26年間、サラリーマンや飲食店経営など多様な職種を経験。その後倉敷市で20年間過ごし、2017年に帰郷した。

Uターンのきっかけは、今年100歳を迎える亨さんの母親の生活サポート。現在は家業の桃農家を継ぎ、妻・裕子さんとともに桃の生産直売を行っている。上藤夫妻が真心を込めて育てる桃は、品質の高さと一つひとつ糖度を測ってから箱詰めする丁寧な仕事ぶりから、地元はもとより全国でも評判だ。

さらに上藤夫妻は、夏場しか

使用しない自宅併設の桃の出荷場を活用し、裕子さんの好物であるベビーカステラの販売店「ココちゃんのカステラ」を2022年9月にオープンした。

「うちのカステラの賞味期限は3日間。もちもちの食感で冷めてもおいしいのが特徴です。全国から小麦粉を取り寄せて配合し、半年間試作を重ねてやっとたどり着いた味わいなんです」と手際よくカステラを焼く亨さん。毎朝4時に起きて焼くというカステラは、高梁市内外の7つの店舗や道の駅でも販売している。

亨さんにUターンするメリットを聞くと、「誰もが顔見知りという安心感ですね。地域行事などにもすぐに入っていたので、困ったことは特になかったです」と答えてくれた。京都府出身の裕子さんも「高梁の人はみんなまじめで親切で優しいで

す。店を出した時も近所の人たちが頻りに顔を出し、他地域の人にまで店の宣伝をしてくれたんですよ」と話し、地域住民と良好な関係が築けていることがうかがえる。

「故郷に戻ってきて特に感じるのは、空気の綺麗さと人のあたたかさ。若い頃は都会暮らしに憧れて大阪に出ましたが、今は田舎の方が暮らしやすいですね。自分のやりたいことができ、自分の地域が応援してくれる。今は数日離れただけで故郷が恋しくなるほどですよ」と亨さん。

パワフルで気さくな上藤夫妻に会いたい、地域の方々はもちろん、かつて暮らしただけで縁を結んだ人たちも遠方から訪ねてくる。つながりを大切にする上藤夫妻の人の輪は、「わたしあい」のあるまちでさらに広がっていくだろう。

個性が輝く場所で 楽しさと感動を共有し、 新たな人生を共に歩む

社会福祉法人 P.P.P.
P.P.P. オールスターズ！布寄
しいたけハウス
森田 徹さん



地域の人たちから、「しいたけおじさん」「もりぞーさん」の愛称で呼ばれ親しまれている、森田徹さん。長年、都内のメガバンクグループの信託銀行で銀行員として働き、定年退職後の2022年秋に知人に誘われ高梁市にやってきた。

「しいたけハウス」を始めたきっかけは、もともと高梁市で「農業×福祉」の農福連携事業計画を進めていた前担当者の急な退職だった。その計画は、かつて高梁市成羽町布寄地区の地場産であった葉タバコの集荷場跡地を、国産菌床からしいたけを栽培するしいたけハウスとして再利用し、新たな地場産を興すというもの。屋内でのしいたけ栽培は季節や天候に左右



(左)香り高い「天空のぷっくりやみつきしいたけ」は、旨味の濃さと肉厚で噛み応えのある食感が特徴 (右)標高約450メートルの里山にある3棟の菌床ハウス。見学者や応援者と利用者が一緒に作業するなど、交流の場としても親しまれている (下)シタケの香りに包まれて、「楽しい！」と笑顔で収穫作業に取り組む利用者のみなさん。毎日愛情を込めてシタケを栽培している

されず幅広い人が生産・収穫に携われることから、障がい者の新たな就業機会と活躍の場を創出し、地域活性化にもつながり得ると期待されていた。

森田さんが引き継いだ当時は、ハウスが建っているだけで施設内は空っぽ。それまでしいたけ栽培はもちろん農業との関わりもなかった森田さんは、「事業が軌道に乗るまで、失敗もたくさん経験しました。この歳になって農業の難しさを初めて知り、農家さんの大変さがありがたさを痛感しました」と当時を振り返る。

森田さんが大切にしてきた人生のテーマは、「今日にイキイキ、明日にワクワク」。「人生において努力が結果に結びつか

いことはよくあること。それなら努力も全力で楽しもう！その上で誰かに楽しんでもらえたらなおよし！」と、しいたけハウスを、一人ひとりが障がいを個性として活かせる就労継続支援B型施設として整備。利用希望者の受け入れを積極的に行うほか、見学会や収穫体験、バーベキューなどの交流イベントも開催し、利用者の意欲向上と地域活性化にも貢献してきた。また、近隣の道の駅やスーパー、飲食店等にしいたけを出荷することで、しいたけハウスを拠点に共感の輪を広げ、そこで生まれたさまざまな「わたしあい」が、多くの笑顔と感動を生み出している。

「誰もが楽しく働ける場所は、みんなで創っていくものなんです。しいたけハウスはそれを体現していく拠点施設です。『いい風を吹かせよう』というスローガンは、ハウスで働くみんなとアイデアを出し合ったら自然に決まったんですよ」

今後は新たにカフェ、宿泊施設の施設や廃校になった小学校のギャラリイ化にも挑戦していく。スローガンの通り、新たな「わたしあい」でさらにいい風が吹かせよう。

つながりを大切に、 故郷から広げる人の輪

FUJI 商会
ベビーカステラのお店
ココちゃんのカステラ
上藤亨さん・裕子さん

